

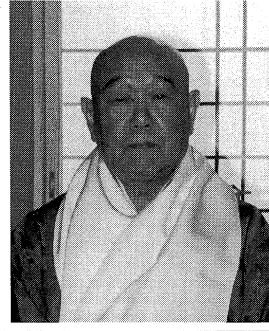
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

ご挨拶

横浜市仏教連合会
 会長 齋藤隆法

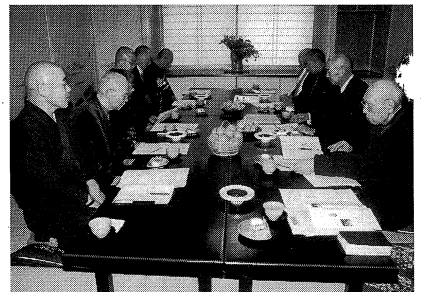
桜の花もいつしか散って新緑の美しい季節を迎えました。新しく芽吹く頃です。何か活気のある生き生きとした感じがいたします。



会員の皆様にはお元気で過ごしてのことと拝察し大慶に存じます。平素は何かと本会のためにご指導ご協力をいただきありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。また各地区仏においてはそれぞれにご活躍なされて地域の活性化につとめておられ、ご協力の程は敬服に存じております。今年も各地区の花祭りには私の都合のゆるす限りで参列させていただきます。参加されている檀信徒の皆様の実に熱心なお心にはいつも敬服いたしております。地区の小さなどんなさやかな出来事でもそれが次第に大きなかたまりとなって実を結び、市仏全体の大きな輪になって少しでも地区の皆様にはアピール出来ればうれしい事だと思っております。

顧みますと去年後半から本年の前半にかけていろいろな出来事がありました。相も変わらぬ新しい出来事など、私共仏教徒としてどうしてこんな事が胸をうたれ、何とかせねばと心をいためる日々です。しかし、いろいろな出来事の中でもなんと申しても最近の明るいニュースで天皇ご一家のおめでたい出来事はうれしい事です。本年の末にはきつとよるこばしい現実が迎えられる事でしょう。また、それを私共日本国全体がご期待したいと思っております。

ご挨拶のこの場をかりて恐縮に存じますが私ごと皆様のご指導ご協力を頂き会長として二期四年間つとめさせて頂きました。この度会長の職を退任することになりました。皆様始め、区仏会のためになんのご期待に沿うことも出来ず深く反省をいたしております。本当に長い間ありがとうございました。次の新会長に変わりましたも私以上にご指導ご協力を心からお願ひ申し上げます。季節の変わり目には、ご法体ご自愛になされ、ご寺門の興隆と寺内ご安泰ご繁栄をご祈念申しあげ失礼をいたします。



歳末理事会報告

平成12年12月21日、午後五時より、中区相生町の築業にて理事会が開催され、十九名の出席(区仏会長十一名、その他八名)があつた。議題は、涅槃会の件、総会の件、仏跡参拝の件。果慰靈堂出仕の件では一・二月は取り止めることとなつた。斎藤会長より市の生活衛生課長名で出された「墓地調査の実施について」の説明があつた。新規開設の寺院墓地四十九ヶ所が認可されたとのこと。業者を介さない寺院墓地の認可をスムーズに行なうよう申し入れた由。

涅槃会打合わせ(妙光寺)

役員選考委員会開催

市仏連役員改選にあたり、次の選考委員により、去る二月十七日、三月六日に委員会が開かれた。

- 委員長 戸塚区 岩波道俊師
- 委員 栄区 星野英俊師
- 委員 瀬谷区 柳沢柳丸師
- 委員 中区 上柳毅明師
- 委員 西区 増田大祐師

具慰靈堂出仕当番表

- 平成13年6月5日(水) 中区
- 平成13年10月5日(金) 保土・旭区
- 平成13年11月5日(月) 鶴見区
- 平成14年(未定) 戸塚区

涅槃会担当区予定

- 第27回 平成14年2月 泉区
- 第28回 平成15年2月 栄区

お知らせ

- ◎ 釈尊奉讃会総会・奉讃舞踊
5月11日(金) 午後二時より
会場 網島東照寺会館
- ◎ 市仏連合会総会
5月22日(火) 午後二時より
会場 中区西有寺
- ◎ 春の仏跡参拝(川越・能仁寺)
6月14日(木)
費用九千円、5月20日〆切

区仏会長名簿

- 鶴見区 松蔭寺 川上敬吾
- 神奈川区 本覚寺 守長尚文
- 西区 区 東福寺 増田大祐
- 中区 区 東福院 上柳毅明
- 南・港南区 興禅寺 市川智彬
- 保土・旭区 清来寺 曾我富美雄
- 磯子区 大聖院 鷲雄興勝
- 金沢区 慶珊寺 佐伯隆定
- 港北区 金蔵寺 内田大寛
- 都筑区 宗忠寺 夏見邦夫
- 緑・青葉区 弘聖寺 内野公雄
- 戸塚区 福泉寺 岩波道俊
- 瀬谷区 最勝寺 柳沢柳丸
- 泉区 永明寺 石田征史
- 栄区 般若院 星野英秀

(平成13年4月現在)

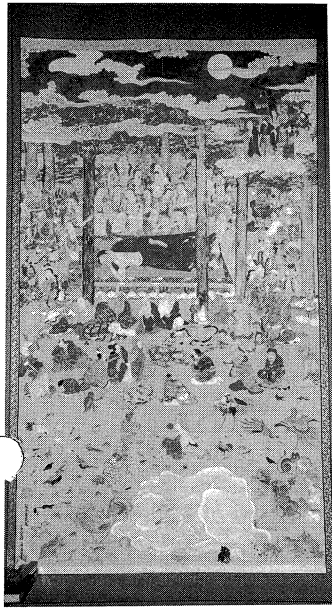
第二十六回釈尊涅槃会開催

於 妙光寺 瀬谷区仏教会

恒例の市仏連、市釈尊奉讃会主催の涅槃会が、平成十三年二月六日(火)に催された。担当は瀬谷区で、会場は瀬谷区上瀬谷町にある日蓮宗妙光寺(秋山智謙住職)。

本堂右横に掛けられた涅槃図は、秋山住職の実家、山梨県甲妙寺(秋山兼務住職)様蔵のもので、縦三メートル、横幅一・七メートルの大図である。妙光寺は、白雉三年(六五二)に明光比丘尼が建てたといわれる古寺で、弘安五年(一二八二)には池上に向かう途中の日蓮上人が宿泊されたところから、以前の天台宗明光寺から、日蓮宗の妙光寺に改宗したと伝えられている。正中二年(一三二五) 铸造の梵鐘は県の重要文化財に指定されている。

各宗の儀式を折衷した独自の方式で浄道場、啓白文、読経が行われ、玄野孝善副会長のユーモアあふれる司会のもと、次第に沿って

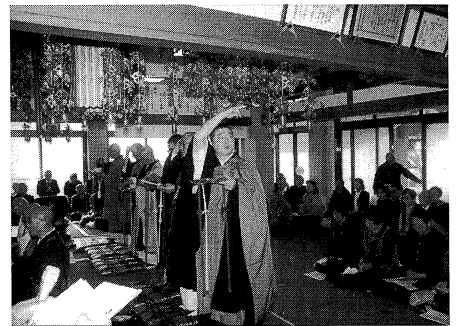


◎市仏連会長挨拶 (斎藤隆法師)

本日はお釈迦様が無くなられた涅槃会の日です。常葉会ともいいます。私達は仏様の教えをいただき、生きているありがたさを感じないといけません。

命が一番大切なもので、それは自分だけのものではありません。海の魚、畑の野菜も生きています。それらの食べ物も自分たちの中に生きついでいます。それらのいのちをも含めて「生かせいのち」という気持ちで私達自身がこのいのちを生かさなければいけないのです。

私達は二十一世紀に生きられた



講師のお話を聞いて、仲間の人にお話していただければお釈迦様が喜ばれることだと思います。

神奈川県仏教会会長挨拶
横山敏明師

本日は第26回の涅槃会です。二十六年と口では簡単に言えますが、ほんとうによく継続し、相続されてきたこと、関係の皆様方に深く敬意を表したいと思います。

お互い釈尊を信じながら今日一日、ここを安穩の住拠として心豊かに過ごしていただければ幸いです。

◎瀬谷区仏教会長挨拶 柳沢柳丸師

先程は厳肅に法要が執り行われました。日頃はそれぞれご自分のご宗旨ご宗派でそれぞれ仏道にご

◎市釈尊奉讃会会長挨拶 鈴木啓一郎氏

私がお釈迦様のお教えに接するようになったきっかけは、ふとしたことで死の恐怖を感じたことによります。お釈迦様は偉い人だなあと思つたことがあります。

「それあるにより、それあり。これなきゆえに、これなし。」

「良いことをすれば良い結果、悪いことをすれば悪い結果がくる。それは同量であり同質である。」

と。すべての生きものは共通して守らなければならない法則を説かれました。ところが、現代人は利己主義でこの原理を知らない人が多く、生活が豊かにさえなればいいと思つているのです。本日の

講演要旨 「般涅槃」 真宗大谷派三寶寺住職 目崎法薫師

涅槃と般涅槃の違いですが、涅槃はすべての悩みが消え去ることを意味します。それに対して般涅槃は、お釈迦様のお体は亡くなつていきますが、この教えは永遠にずっと続いていくんだという遺言をもつて示されたことを指します。

お釈迦様の覚の道の中の一つに「精進」があります。精進とはいっしょうけんめいという意味ですが、お釈迦様の覚は、いっしょうけんめいやるということばの中に「心の勇氣をもつこと」が含まれています。あらゆる欲望をすべて呑み込んで、自分の中に抑える心の勇氣を持つことが覚の道であるとお釈迦様はおっしゃっていられます。一回出してしまつた言葉はずっと流れて行きます。一度でも思つたことは次の世代に受け継がれるとも言われます。それ(欲望)を思つたとき、どう自分から切り放していくかが大切です。仏法とは予防の教えでもあります。(欲望が)起きたときにどうするか、起きる前に強い心の勇氣で予防することが大切です。

覚のことを「無上等正覚」といいます。無上は最高、等はだれでも必ず、正覚は目覚めることです。

精進いただいておられることと思いますが、今日はそうした一宗一派を越えてこの釈尊涅槃会にご参加いただきましたことは、仏教徒として誠に大事なことでおっしゃっています。

瀬谷区仏教会は市内でも一番寺院数の少ない僅か八ヶ寺ではありますが、宗旨宗派を越えて一致協力し、会場の下準備をさせていただきました。ほんとうに尊い仏縁だと感謝しております。ありがとうございます。

◎講師は、伊勢原市三寶寺の住職で、毎月寺の新聞等を発行され、日頃より熱心に布教活動をなさつておられます。よろしくご静聴の程お願い致します。

朝起きて目が覚める。夜の明けない日はない。苦しみも喜びに変わる。必ず苦勞は喜びに変えることができる訳ですが、このありがたさがわかるかわからないかは、法縁に会うか合わないかに因ります。仏法の世に生まれた有り難さに気づき、私を救ってくれる人が必ずいることを信じて精進し、さらに自分を向上させるように努力し、自分が受けた恩恵を人に施しをする布施の心を持つことが大切です。



お釈迦様は29才のときに、苦の行として覚への道を歩まれて以来、「聖なる願望」が自分の内なるものから聞こえて来られたのです。生老病死の苦を滅する内なる声がグツグツと湧いて来て、スジャータという娘からいただいた乳がゆをいただいたときに、ついに無上等正覚の覚証という安心（成道）に目覚めたのです。35才のときでありました。

この涅槃の心は二つの縁によってできています。つまり、正縁（親やこの国土から育かれた存在）と助縁（他から必要とされた存在）により自分があるのだということに気づかれたのです。

しかし、この法はことばで表現

することは難いのでしばらくは説きませんでした。というよりは、あまりにも周囲の人が快樂的でわがまま人が多く、真実の話を聞こうとしない人（無明）ばかりだからでした。

それでもお釈迦様は、備えさせてもらった教えを説きはじめました。例えば死ぬす前の人の前では、「死というのは覚への縁なのだ」と説き、皆がこの教えを聞いてくれば、必ず苦しみのない安らぎの心が起こると悟したので

す。そして、人々が聞く耳を持ち出したときに、いよいよ具体的に法を説いていったのです。

(1)四聖諦：お蔭様という気持ちが出てくると、八つの正しい行い（八正道）に目覚め、それを実施したとき、すべての苦は滅し消されると説く。

(2)中の思想：如来の心はどんなことも見返りを期待しないで救っていかうとする。ダメも良いもなく、善悪、有無の対立を離れ、誠にとらわれることがない境地と説く。

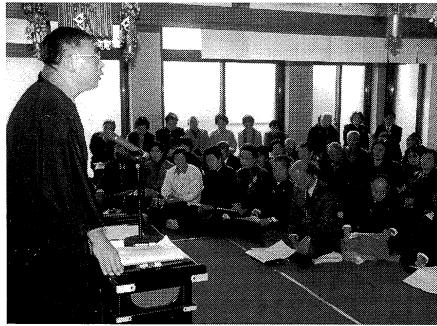
(3)縁起：種は土に植え、水を与えてこそ芽が出る。あたかも、よくぞ私を生み育ててくれましたと合掌（双葉）して芽が出てくるかのようだ。命は移り変わり（無常）、行つたことは必ず報いがくると説く。

(4)覚への道：八正道、布施、六波羅密の三つが基本であり、つきつめれば、智慧と慈悲に集約できる。智慧は、自分がしている行動が分析でき、人が喜ぶこと（心施）を心がけることであり、慈悲はどんなことがあっても人のために尽くすことと説く。

(5)捨命住寿：お釈迦様が亡くなり、体が亡びたあとに、この教えはどのうなるかと阿難に聞いたところ、心配そうにする阿難に対して、「大丈夫、必ず受け継がれる」と言われた。これが般涅槃である。

般涅槃とは、自分が往生したあと、いかなる教えが残るかということ。クシナガラで釈迦様は最後の説法を説かれた。

今までは、お金、財物、そして人生の不安があつたが、往生が近くなり、多少の老死の苦しみはあつても他の幸せを願う心が生まれてきたと説いています。そして、体を荼毘にして焼くことよって諸々の執着心を消すことができること示されています。



日本に於いて、初めて般涅槃を説いたのは推古天皇です。天皇は「いただきます」「おかげさま」という言葉を二才までに声を出して言う習慣をつけ、この仏教の思

想を日本の文化にしようと言つたのであります。(編集子要約)

◎市釈尊奉讃会事務局長 程木徳明師

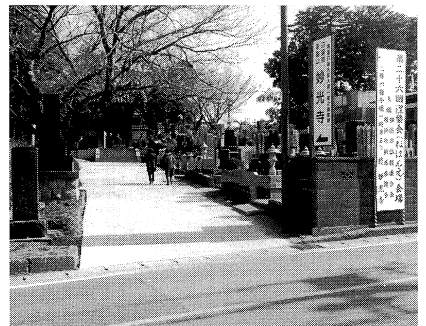
釈尊奉讃会ができましたのは昭和54年です。今年で二十一年になります。現在約五百人の会員がいられます。活動としては、春と秋の仏跡参拝旅行、涅槃会、総会等、年間に四〜五回お会いする機会があります。昨年の秋には家光のお墓をお参り致しましたが、この春には生まれた川越を訪ねます。入会費は二千元、年会費、二千元でございます。会員の皆様には、輪袈裟とバッチを差し上げ、年二回の会報を配布しております。お釈迦様のお心をいただいて仏様の心に到りたいという会です。ぜひ

秋の奉讃会参拝旅行

日光大猷院・会津福島方面

秋の仏蹟参拝旅行が、平成十二年十一月八日から十日まで、日光福島方面を訪ねて実施されました。昨年はNHK大河ドラマで徳川三代が取り上げられ、日光の大猷院では家光公の墓が三百五十年目にして初公開されるということでの参拝地選定でありました。

天理ビル前を七時に出発。紅葉には早い感があつたものの東北道を進むうちにだんだんと景色は秋色を増し、日光は正に秋本番。日光駅前からは車の渋滞、人の波でごった返してしまいました。いつしか



皆様にお声をおかけ下さい。今日はまだ肌寒い日となつておりますが、そんな中おいでいただいた皆様は正しく仏のお子様だと思います。本日はありがとうございました。

我団体も他の人の渦にまぎれ、人に押されるように奥の院の廟所を一周し参詣しました。東照宮より大きくしないようにとの遺言であつたようですが、各所の彫刻、荘嚴は見事なものでさすがに世界遺産に値する絢爛さでありました。

日光をあとに、鬼怒川・川治の温泉を通り、会津街道を大川に沿つて福島県へと進む。変わりやすい天候の中、夕闇せまる頃「塔の鼻（ハツリ）」という断崖に到着。吊橋を渡り、寒さと恐さですつか

(6面へつづく)

新法愛高堂

横浜市仏教連合会会長

高野山真言宗福聚院住職

齊 藤 隆 法

〒224 0053 都筑区池辺町二二一九六

電話 九四一—八七七五

横浜市仏教連合会専務理事

浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二—一四〇

電話 三三一—〇六〇七

横浜市仏教連合会会報担当

真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 0037 瀬谷区橋戸三—二—一二

電話 三〇一—六一三四

神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区大平町九六

電話 六六一—〇一六六

横浜市仏教連合会副会長

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五九

電話 三九一—一三七九

横浜市仏教連合会会計

浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234 0056 港南区野庭町一八四三

電話 八四二—七二八八

横浜市仏教連合会会報担当

曹洞宗東泉寺住職

関 水 俊 道

〒245 0017 泉区下飯田町七四三

電話 八〇二—八〇九七

横浜市仏教連合会参与
天台真盛宗新善光寺住職

福 永 隆 昭

〒232 0002 南区三春台一三三

電話 二三一—五七五四

横浜市仏教連合会副会長

鶴見区仏教会長

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 0077 鶴見区東寺尾一—一八—一

電話 五七一—一七〇一

横浜市釈尊奉讃会事務局長

曹洞宗東照寺前任住職

程 木 徳 明

〒223 0053 港北区綱島西一—十三—十五

電話 五三一—一七八三

横浜市仏教連合会監事

緑・青葉区仏教会長

曹洞宗弘聖寺住職

内 野 公 雄

〒226 0014 緑区台村町五四九

電話 九三一—二五二二

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221-0057 神奈川区高島台一―二
電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
金沢区仏教会長
真言宗御室派慶珊寺住職

佐 伯 隆 定

〒236-0051 金沢区富岡東四―一―八
電話 七七二―三二六四

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
真宗大谷派最勝寺住職

柳 沢 柳 丸

〒246-0021 瀬谷区二ツ橋町三三七―一
電話 三六二―六〇七二

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244-0842 栄区飯島町二二四九
電話 三六二―六〇七二

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禪寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区清水ヶ丘二二二五
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長
浄土宗宗忠寺住職

夏 見 邦 夫

〒224-0053 都筑区池辺町二七〇四
電話 九四一―四二七六

日蓮宗妙光寺住職

秋 山 智 謙

〒246-0006 瀬谷区上瀬谷町八一三
電話 三六二―六〇七二

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒221-0022 (目 宅) 神奈川区白幡上町一八四
〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二一八―七
電話 〇三―八三二―二八一九

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235-0005 磯子区東町六一―二〇
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
戸塚区仏教会長
曹洞宗福泉寺住職

岩 波 道 俊

〒245-0066 戸塚区俣野町五八五
電話 八五一―一三四七

横浜市仏教連合会常務理事
泉区仏教会長
曹洞宗永明寺住職

石 田 征 史

〒245-0003 泉区岡津町一六一六
電話 八一―一四一〇六

横浜市仏教連合会御用達
(株)ビーエヌ観光神奈川社長

真 川 明

〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一―四
公園ハイツ二―一―二八
電話 三三四―三三〇〇



(3面よりつづく)

り冷えきつた体を、みやげ物屋の味噌汁が暖めてくれました。一晩目は、若ノ牧温泉に泊。いわな料理など、会津の土地の料理を味わい、白虎隊の剣舞を旅館の方々が踊りもてなしてくれました。

二日目は、前日回れなかった「大内宿」からの見学です。旧街道の面影が見事に保存され立ち並ぶ軒下では、農産物や民芸品などの風情あふれる品々が思い思いに店頭並び、わざわざコンクリートを取って土の道路とした両脇には清水が流れています。情緒豊かな思いをそのままに会津若松市内へ入り、流紋焼の工房を見学。磐梯山に見守られるかのように磐梯高速道を往復して柳津の臨濟宗円蔵寺虚空藏菩薩を参拝しました。

続いて喜多方を訪ね、名物のラーメンの昼食のあと、市内を自由散策。裏磐梯の五色沼を経由して磐梯熱海温泉へ。この夜は懇親の夕食会となり、歌や踊りで楽しみました。

した。

三日目は、二本松の曹洞宗大隣寺へ。藩主丹羽家の菩提寺で、歴代の立派な位牌が残されていて、境内には白虎隊と並び悲劇の二本松少年隊の墓もありました。有名な菊人形展の会場は二本松城址であり、すばらしい作品の数々が展示されていました。

今回は五十名程の参加と、バス一台のこじんまりとした一行でしたが、毎回顔馴染みの人も多く、和気合々の思い出深い旅でありました。東北の青く澄んだ空と、清らかな川と湖。そこに映える赤や黄の紅葉、菊花と…。そして、自然の美しさと共に、歴史の節目に舞台となった各地が色鮮やかに浮き上がって見えたような今回の参拝旅行でありました。住職参加六名。参加寺院は次の通りです。

- 長昌寺、東照寺、東泉寺、保福寺、海照寺、勤行寺、宝珠院、正観寺、見光寺、西福寺



大猷院山門

話 材 紹 介

「お坊さん、あの世ってどこにあるの?」とか、「なぜ頭の毛が無いの?」など、お年寄りから子供まで、私達への質問は多様になる。火葬待ちの時間などには質問攻めに合うことも会員諸師の常とするところであろう。待つてましたとばかりに布教教化の場を得たりとほくそ笑むこともあろうし、はたどう言ったものかと悩むことも多い。

今号の話材は、そんな質問へのユニークな解答例を取材して取り上げた。檀信徒の皆様とのコミュニケーション深化の一助となれば幸いである。

Q「死んだらどこへ行くの?」

あの世、お墓、天国、冥途(めいど)、仏国土、お浄土、黄泉(よみ)などと一般的には呼ばれているが、インドの仏教では解脱しない限り「転生」として、輪廻を繰

り返すとされる。転生に戻つて来ると考えれば、再び人間界にお孫さんなどとなって戻ると考えれば、悟(解脱)に到らない方が喜ばれるかも知れない。しかし、仏教的に言えば、生きながらにして仏となることを目的とするため仏となつて見守つてくれるのが最良の考え方である。本誌の涅槃会講演要旨の中にあるように、お釈迦様を慕

寺 檀 問 答 あ れ こ れ

い、その教えを受け継ぐ心の中に「般涅槃」として永遠に生き続けると説くのが、本義と言えよう。ただし、死者を送る縁者と共に仏の生き方を目指し、成仏に到るといふことが通仏教的な考えと言える。供養、法事、布施などは、死者に代わつて功德を積み、成仏を目指す助縁となる。ある説法例では「亡くなった方を親しく思い、その遺志を大切にしたいと思う心の中に生きられる」という説き方はわかり易い。逆にそう思ってもらえる生き方をしなければいけない警告にもなる。一回見て来て教えておくれ」などと言いたいところであるが響感ものであろう。

Q「なぜお寺にはキラキラしたものが多いの?」
ある寺院に見学に来た小学生の質問だそうである。考えてみれば天蓋、水引、真鍮製の仏具など、

キラキラしたものがお寺には多い。住職の身にまとう金襴の袈裟も然り。

莊嚴の意味をたどると、華嚴経で説くような莊嚴彩色甚妙な仏国土の尊厳さを象徴し、表現していることが判る。つまり、天上天下唯我独尊で言う、「尊」のように一人ひとりの尊厳さのシンボルとしての表れと考えることができる。質問に対して次のように答えたそう。

「君は自分がちつぽけなものだと思つているかも知れないし、何をやってもダメなヤツと思つているかも知れないけれど、実は大仏様のように大きくて、この飾り物(天蓋)のように美しいんだということを教えてくれたらいいんだ」と。その続きの質問にギャフンとなつたそう。お坊さんこれいくらするの? 相手が一枚上。Q「ホトケ様はどこにいるの?」
月まいり、中陰まいり、棚経まいり、彼岸まいり等…、檀徒さんのお宅に参ることは大変で、年々取り止めている寺院も増えているとか。特にお盆の時期には限られた日数の中で、工夫されている諸師も多いことと思う。

あるご住職は、お盆の数日前に棚経を回り始めたところ、「あら、まだ迎え火を焚いてないのにならう」と家の人。そこで住職云く、「いいよ、いいよ私が背負つ



二本松菊人形

て来たから」と澄ましてお経を誦
 んだとか。それでは迎え火はどう
 したらの質問に、「私がまた連れ
 て帰るからお家の人でしつかりお
 迎えて下さい」と言つたそう。
 また、別の老僧の例では、「迎
 え火のあと14日にお墓参りに行っ
 たのですが、空っぽのお墓だつた
 んですね」という問に対して、「あ
 なたが手を合わせお参りした所に
 仏様はいられません。安心してお参
 り下さい」と説明したそうである。
 ある唱へごとに「仏身は法界に充
 満し普く一切群生の前に現ず」と
 ある。その大前提での上での慣習
 儀礼であると言えよう。

Q「涅槃図に猫がいない訳は？」
 書画に関わる質問も多いが、代
 表的なのが涅槃図であろう。一
 般的に猫は描かれていないが、そ
 の理由の一つとして、十二支に外
 れたことが考えられている。お釈
 迦様が十二支を決めるために動物
 たちを召集した際、鼠が猫に入っ
 て、もらいたくないために嘘の日
 を教えたので出席できなかつたと
 いうものである。次の説は、猫は
 情が薄いため臨終に来なかつたと
 いうもの。絵図によつてはカニと
 遊んでいる猫が入っているものも
 ある。さらに、麻耶夫人がお釈迦
 様へ葉袋を投げたが、沙羅の木に
 引っかかり、その紐を噛み切ろう
 としていた鼠を猫が食べてしまつ
 たために葉袋が落ちず、葉が間に
 合わなかつたからとする説もある。
 他にも、火葬場の帰りには「な
 ぜ同じ道を通つてはいけないのか」
 とか、お墓参りの際、「ついで参

時局対策委員会報告

りはなぜいけないか」とか、諸師
 も一度は聞かれたことがあること
 は沢山ある。仏教の理念とは無
 関係と思われる内容もあるが、寺
 院・仏教に関わる用語や風習は長
 い歴史の中で様々な形で表されて
 きた。現代人にとっては難解でわ
 かりにくい面も多い。良寛さんの
 ように優しく、一休さんのとんち

強力な連携を築くために

委員長 佐藤 功 岳



のようにユーモアをきかした「な
 るほど」と思わせる答え方は無い
 のか。会員諸師の英知をお寄せ
 いただければ幸甚である。

当委員会は、アンケートの調査
 集約、リーフレットの配布と活動
 を重ねて参りました。このことは
 一重に本年九月頃に予定しており
 ます葬儀業者との協議テーブル設
 営への準備であります。

この協議テーブルは、業者糾弾
 を目的とするのではなく、今日
 まであまりにも対話がなされず、
 結果として宗教不在化の様を呈し
 て来たため、この是正を図ろうと
 いうものであります。

本委員会の活動を知り、各師か
 ら激励のお言葉をいただいております。
 大変有難いことと感謝して
 おります。また、そうした方々か
 らも、現状を嘆く声が寄せられて
 おります。

しかし、本委員会ご寺院の中に
 はまだ、こうした事態の認識が少
 ない方もいくらかおられるかと存
 じます。このような運動は、全会
 員が一丸となつて進めるところに
 意義があり効果もあるかと存じま

に働かざるかと考えられます。そ
 して、葬儀の形態の多様化も研究
 しなければならぬかと存じます。
 す。お仏壇の前にお棺を備えるだ
 けの密葬・骨上げ後、日を改めて
 本堂で行う本葬儀も、本堂にお祈
 り中心となつた心ゆくご葬儀でし
 た。会員各師からご提案をいただ
 ければ幸甚と存じます。
 最後に、昨年、皆様のお手元に
 お届けしたリーフレット「これで
 安心」が、平塚市仏教会でも採用
 される運びとなりました。この運
 動の広がることを期待しておりま
 す。是非、全会員のご協力お願い
 致します。

支部だより

戸塚区

平成十二年十月十九日、二十日
 矢部町雲林寺さんで、晋山結制の
 大法会が修行されました。

当日は夜来の雨もあがりすがす
 がしい秋日和に恵まれました。

時至つて須弥壇上上がった新
 命北見秀明師と大勢の修行僧達と
 の大問答が展開されました。新命
 老師の真価が証明され、境内を埋
 めつくした檀信徒一同しばし法悦
 にひたり、それぞれの感懐を深く
 した模様でありました。

年も新たまり平成十三年二月三
 日川上町倫勝寺さんに於ては「身
 体健全、除難招福」を願う「節分
 大祈禱会」が修行されました。

出演の著名人、年男、年女の
 達など三十人程が「鬼は外、福は
 うち」の掛声と共に、一斗缶八本
 分の福豆を撒きました。約千三百



人程の善男善女人歓声を挙げて殺
 到しました。寒さを吹きとばし、
 本年の幸を願うひとときでした。
 二月六日の市仏主催の涅槃会に
 は戸塚区仏として参加しました。
 四月七日には戸塚区仏教会花祭
 会を挙げる予定です。

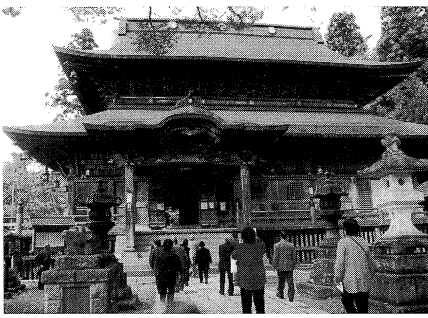
都筑区

十二年十月
 チベット展が、十月二十五日より
 十月三十日迄、港北東急デパート
 にて開催されたが、これに協力。
 十二年十一月十一日

都筑区「市民福祉の市」開催に伴
 い真言宗寺院の協力により仏教音
 楽として声明を、地下鉄センター
 北駅構内にて発表
 十三年三月六日

区仏役員会開く(以下議題)

- 一、仏教徒が忘れかけてる「花まつり」を如何に衆知してもらうか
 - 二、総会日程の件
 - 三、役員改選の件
 - 四、その他の件
- 花まつりについては四月六日、



地下鉄センター南駅にて、パンフレット配布と決める。以上

来る六月二日(土)午後二時三十分より、大林寺観音堂山水閣(緑区長津田六二一七)に於いて寺院法律相談を行います。

社会の変化から寺院を取り巻く諸問題も変わりつつあります。今後も檀信徒・近隣民家等と円満な関係を保つていくためには、寺として最低限の務めを果たした上で、法律知識も心得ておく必要があるかと思えます。

今回の寺院法律相談会では、無縁墓の整理・墓の相続・新墓地の開発・境内、墓地の管理責任・境内清掃等について、弁護士の見解を拝聴いたします。

また、会員以外の方のご参加も歓迎いたしております。参加希望・ご不明な点は、小会事務局(宝塔院・九三一―二八〇九)までお問い合わせ下さい。

緑・青葉区

二月六日、横浜市仏教連合会、釈尊奉参会の第二十六回涅槃会法要が、会場になりました。瀬谷区上瀬谷町の日蓮宗妙光寺で厳修されました。

参加者は法要の後、伊勢原市沼目の真宗大谷派三寶寺住職、目崎法薫師の「般涅槃」と題しての講演にメモ等を取りながら熱心に聴講をされていました。

今回は当区が会場の当番にあたりましたので、会員一同事前に何か下準備の打合わせをし、特に参加者人数の予測に重点をおき、限られた予算内で支出の配分を致しました。結果として、他区仏さん関係の参加者が予想に反して極めて少なかったことが判明いたしました。今後の涅槃会法要にあたって、貴重なご予算の有効活用等その他に多少なりともご参考にしていただければ幸いです。

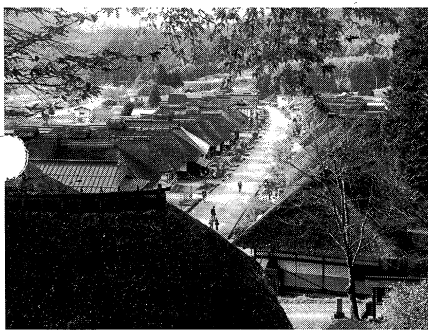
瀬谷区

二月六日、横浜市仏教連合会、釈尊奉参会の第二十六回涅槃会法要が、会場になりました。瀬谷区上瀬谷町の日蓮宗妙光寺で厳修されました。

参加者は法要の後、伊勢原市沼目の真宗大谷派三寶寺住職、目崎法薫師の「般涅槃」と題しての講演にメモ等を取りながら熱心に聴講をされていました。

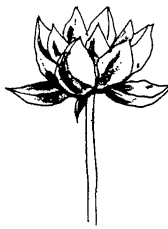
今回は当区が会場の当番にあたりましたので、会員一同事前に何か下準備の打合わせをし、特に参加者人数の予測に重点をおき、限られた予算内で支出の配分を致しました。結果として、他区仏さん関係の参加者が予想に反して極めて少なかったことが判明いたしました。今後の涅槃会法要にあたって、貴重なご予算の有効活用等その他に多少なりともご参考にしていただければ幸いです。

◆写真上・柳津虚空蔵 中・大内宿 下・五色沼

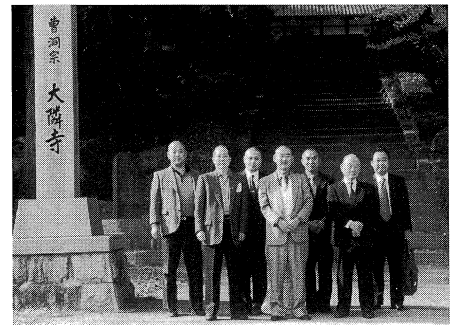


● 事務日誌

- 12・11 理事会案内発送
- 12・11 26 涅槃会案内発送
- 12・12 4 涅槃会合同打合わせ (於妙光寺)
- 12・12 21 理事会・忘年会 (於筑葉)
- 13・1 17 涅槃会案内発送
- 13・2 1 選考委員会案内送付
- 13・2 5 県慰霊堂(金沢区)
- 13・2 6 第26回釈尊涅槃会 (於妙光寺)
- 13・2 7 奉讃会会報発送
- 13・2 17 第1回選考委員会
- 13・3 6 第2回選考委員会 (於西有寺)
- 13・3 16 会報第52号編集会議 (於東泉寺)
- 13・4 5 県慰霊堂(中区)



● 編集後記



◎斎藤隆法師が二期四年で任期満了となる。各会合、行事には必ず出席され、本会の結束・親睦にご尽力賜った。スタッフの一角として心より感謝申し上げたい。

◎時局対策委員会の活動に寄せる期待は大きい。今号の報告にあるように、他地区の仏教会からも評価いただいているとのこと嬉しい限りである。しかし、報告にもあるが、葬儀社との理解を深めるには、会員諸師四五〇ヶ寺の結束と共通理解が肝要と思われる。そのため各区分からの相互の意見交換の場を早急に持つことを編集子として提案したい。

◎編集子の先師は在家から中年で出家し、住職になった方だが、その実姉は大阪に住んでいて、よく弟の寺に遊びに来た。寺の門に入ってくる時に「和尚、儲りまっか?」と大音声で言う。それには先師も閉口して、とうとう出入り禁止に

してしまった。住職も長いことをやっていれば、「ボチボチでんな」と受け答え出来たと思っただが、坊さん丸儲け、稼ぎ時、などと皮肉られて、小僧時代に棚経に行きたくなかつた経験をお持ちの方もあろう。今号の話材は、僧檀のスリリングなやりとりの事例をシミュレーションの形で取り上げ、口火を切ってみた。いつか続編を考え中。

◎政局も、経済も混沌の時代。私たちも安閑としてはいられない。時局対策同様、会報の話材についても諸師のお考えが反映する場を増やして行きたい。各区仏会長師を通し、又は直接、編集子までご意見、ご玉稿を賜われば幸いです。

◎IT化、マイライン、デジタルTVなど「知らない」では済まない時代、21世紀初の今号の編集であり、心が引き締まる思いである。話材特集の中に、「死んだらどこへ?」とあつたが、西洋では「お星になる」東洋では「お月さんに上る」と言われて来た。最近NASAでは月に死者の証を〇千万円で送る募集をしたそう。本当に月に昇天する時代が来た。墓無い(ハカナイ)命とは言え、墓地の問題も深刻である。

◎第26回涅槃会の担当は八ヶ寺の瀬谷区仏であった。会場の妙光寺様は駅から離れているにも関わらず、一四〇名余りの参拝で賑わい、寺檀、会員諸師の分担手管は見事で感激した。瀬谷八福神などの日頃の絆の深さに敬意を表したい。